

ケアミックス型病院における転入院受入体制の構築とその効果

医療法人玄同会小島病院 地域連携室

○佐藤 千秋、豊永 智和、原 睦展、小島敬太郎

【はじめに】

当院は一般病棟と療養病棟からなるケアミックス型病院である。そのため亜急性期や回復期、長期療養などさまざまな目的の転入院依頼がある。平成20年度からは脳卒中地域連携クリティカルパスの回復期病院として登録した。このような背景から、地域連携室を中心に受入体制を見直し取り組んだ結果、翌年からは受入件数が増加した。また職員の意識改革にも繋がったのでその効果について報告する。

【取り組み内容】

1) 「小島病院入院相談票」を見直し転入院判定に有用なシートとした。2) 転院判定や転院日を決定することを目的とした「病床運用連絡会」を発足した。平日朝9時に開催し各病棟の入退院状況を病棟外来間で共有した。3) 「病床運用検討会」を発足し年に数回転院実績や問題点を共有し討議した。

【結果】

平成20年度の転入院受入割合は相談数の内46%であった。「病床運用連絡会」を毎朝開催したことで転入院決定がスムーズにできるようになった。受入後問題が生じたケースや受入れ出来なかったケースは「病床運用検討会」にて分析し討議を重ねた。結果、翌年は受入割合が59%と上昇した。付帯効果として地域医療ニーズの把握や当院の役割を考え直すきっかけとなった。

【まとめ】

転入院の依頼のほとんどは高次救急医療機関からである。今後も救急医療における後方支援を含め、当院における各病床が地域の資源として有効活用できるように努めたい。